

科目名	ネットワークⅢB										
科目名(英)											
単位数	10単位		時間数		150時間		担当者		久保山 大地・高倉 美哉		
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験				
対象学科・学年	情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻3年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻 情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース2年										
授業概要	セキュリティ、ワイヤレス、ネットワーク自動化などの企業ネットワークに必要とされる機能を学習して 企業ネットワーク全般の構築と運用ができるようになる										
	iCDタスクコード		DV04.4.1								
授業形態	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○	○				企業ネットワークで必要とされる機能を説明できる。					
	○	○	○			企業ネットワークの構築ができる。					
	○	○	○			企業ネットワークの運用ができる。					
テキスト・教材 参考図書	シスコ技術者認定教科書 CCNA 完全合格テキスト&問題集[対応試験]200-301(翔泳社) 1冊ですべてわかるネットワーク運用・保守の基本(SB Creative)										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1-3	LAN設計モデル					サブネット化の方法を復習すること				
	4-4	ネットワーク管理の全体像									
	5-6	WAN									
	7-7	[運用]構成管理、性能管理									
	8-12	VPN					セキュリティの基本的な事項について復習すること				
	13-13	[運用]ネットワークの運用管理									
	14-15	ネットワークセキュリティの概要									
	16-16	[運用]ネットワーク運用監視									
	17-20	ネットワークデバイスの保護									
	21-21	[運用]ネットワーク監視装置									
	22-26	スイッチドネットワークでの脅威とセキュリティ機能					スイッチで用いるプロトコルを復習すること				
	27-27	[運用]メンテナンス用ネットワーク									
	28-29	ネットワーク認証									
	30-31	ネットワーク認可									
	32-33	ネットワークのアカウントティング									
	34-34	[運用]ネットワーク障害対応									
	35-37	ワイヤレスネットワークの基礎									
	38-38	[運用]ネットワーク装置のバックアップ									
	39-43	ワイヤレスLANのアーキテクチャ									
	44-46	ワイヤレスLANのセキュリティ									
	47-49	ワイヤレスLANの構築と運用									
	50-50	[運用]パケットキャプチャー									
	51-52	SDNの概要									
	53-55	CiscoのSDNソリューション									
	56-63	ネットワーク構築演習 LAN									
	64-69	ネットワーク構築演習 セキュリティ									
	70-75	ネットワーク構築演習 総合									

評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で確認テストを10回実施する。 (3)実習内容を課題レポートとして提出させる。(4)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	定期試験(筆記)	○	◎			30%
	確認テスト		◎			20%
	課題		◎	○		30%
	受講状況				◎	20%
履修上の注意						

科目名	サーバー仮想化演習							
科目名(英)								
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	久保山 大地	
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験		
対象学科・学年	情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻 3年、情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻 3年、情報システム専攻科 ネットワークエンジニア専攻 アドバンスコース 2年、情報システム科ネットワーク専攻 アドバンスコース 2年							
授業概要	ネットワーク、サーバーを取り巻く技術の中でも仮想化技術の重要性は日々増している。仮想化技術の種別、メリット、仕組みを理解し、各仮想化技術を構築、運用するスキルの習得を目指す。							
	iCDタスクコード		DV04.7.1、DV04.7.1					
授業形態	講義：△		演習：○	実習：		実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○	○				仮想化技術の基本用語を説明できる		
	○	○				Dockerによるコンテナの基本操作が行える		
	○	○				Kubernetesによるコンテナの基本操作が行える		
テキスト・教材 参考図書	図解即戦力 仮想化&コンテナがこれ1冊でしっかりわかる教科							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	01-02	仮想化とは、仮想化の種別、仮想化のメリットとデメリット、仮想化とクラウド						
	03-04	クラウドのセキュリティ、サーバー仮想化のしくみ、ホストOS型仮想化、ハイパーバイザ型仮想化						
	05-06	コンテナ型仮想化、クラウドのサーバー仮想化、ネットワーク仮想化のしくみ、VLAN						
	07-08	オーバーレイネットワーク、VPN、SDN、NFV						
	09-10	SD-WAN、クラウドのネットワーク仮想化、コンテナ技術の歴史、コンテナ技術のメリット						
	11-12	DevOpsとコンテナ技術、主要なコンテナ技術、マイクロサービス、コンテナとサーバーレスの比較						
	13-14	Dockerとは、Dockerが注目される理由、Dockerコンテナ、コンテナイメージ						
	15-16	コンテナのライフサイクル、Dockerデーモン、コンテナとプロセス、名前空間						
	17-18	差分管理、Swarm mode、主要なDockerコマンド、Docker Hub						
	19-20	コンテナオーケストレーション、Kubernetesとは、ポッド、デプロイメントコントローラ						
	21-22	サービス、flannel、負荷分散と死活監視、スケーリング						
	23-24	主要なKubernetesコマンド、自動ビルド、マルチクラウド、Kubernetesのアーキテクチャ						
	25-26	クラウドのコンテナ技術対応状況、Amazon ECS、Amazon EKS、AWS Fargate						
	27-28	GKE、Cloud Run、AKS、ACI、Docker Enterprise						
	29-30	総復習						
	評価方法	(1)受講状況を評価する。(2)演習課題のエビデンスを評価する。(3)授業内評価テストを実施し評価する。(4)定期試験(筆記)を実施し評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
受講状況					◎		20%	
課題		○	◎				20%	
授業内評価テスト		◎	○				30%	
定期試験(筆記)		○	◎				30%	
履修上の注意	なし							

科目名	クラウド演習						
科目名(英)							
単位数	4単位		時間数		60時間	担当者	久保山 大地
実施年度	2023年度		実施時期		後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻3年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻3年・ 情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース2年						
授業概要	AWS クラウドのベストプラクティスを学習し、AWS で最適な IT ソリューションを設計するプロセスを 検討するのに役立つさまざまな設計パターンを身につける。						
	iCDタスクコード		DV04.2.1、DV04.3.1、DV04.3.2、DV04.4.1、DV04.7.1、DV04.7.2、 DV04.8.1、DV04.8.2、DV04.9.1、DV04.9.2、DV04.11.1				
授業形態	講義：△		演習：○		実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				ベストプラクティスに基づいてサービスの選択が行える。	
	○	○				拡張性、信頼性、可用性が高いインフラストラクチャを構築できる。	
	○	○				マイクロサービスとサーバーレスアーキテクチャに関する用語を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	Academy Cloud Architecting(AWS アカデミー コンテンツ)						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1-3	モジュール 1：クラウドアーキテクチャ設計の導入					
	4-6	モジュール 2：クラウドアーキテクチャの紹介					
	7-9	モジュール 3：ストレージレイヤの追加					
	10-12	モジュール 4：コンピュートレイヤの追加					
	13-15	モジュール 5：データベース層の追加					
	16-18	モジュール 6：ネットワーク環境の作成					
	19-21	モジュール 7：ネットワークの接続					
	22-24	モジュール 8：ユーザーおよびアプリケーションアクセスの保護					
	25-27	モジュール 9：伸縮自在性、高可用性、監視の実装					
	28-30	モジュール 10：アーキテクチャの自動化					確認テストを全て80点以上にすること。ガイド付きラボ を全て完了すること。
評価方法	(1)課題・レポートをモジュール毎に実施 (2)受講状況 (3)定期試験(筆記) 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題・レポート	○	◎				30%
	受講状況				◎		20%
	定期試験(筆記)		◎				50%
履修上の注意							

科目名	ネットワーク・サーバー構築総合演習						
科目名(英)							
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	久保山 大地
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻3年、情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻3年						
授業概要	ネットワーク、サーバー、クラウドに関する知識を組み合わせ、3層アーキテクチャによるWEBアプリケーションのシステムを構築することで総合的な技術力を身につける。						
	iCDタスクコード		DV04.2.1、DV04.7.1、DV04.8.1、DV08.5.3				
授業形態	講義：△		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				指定した要件を基にシステムを設計できる	
		○		○		必要な技術を調査し、実装することができる	
		○		○		動作確認を行い、不具合があれば修正できる	
				○		グループにおける役割を適切に担い、情報共有を欠かさず、グループ活動を行うことができる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション					
	2-4	ログイン画面作成(LAMP構成サンプル)				ログイン画面を完成させること。	
	5	ログイン画面レビュー					
	6-7	要件提示、システム構成図作成				システム構成図を完成させること。	
	8	システム構成図レビュー					
	9-24	システム開発				システムを完成させること。	
	25	システムレビュー1					
	26-29	システム冗長化				システム冗長化を完成させること。	
	30	システムレビュー2					
評価方法	(1)受講状況を評価する。(2)成果物を評価する。(3)レビューを実施し評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	受講状況				◎		20%
	成果物		◎		○		40%
	レビュー		○	○	◎		40%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	キャリアデザイン							
科目名(英)								
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	久保山 大地	
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験		
対象学科・学年	情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻3年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース1年							
授業概要	就職活動の準備としてIT業界の研究、自己分析、履歴書作成、面接練習を行う。							
	iCDタスクコード		該当なし					
授業形態	講義： ○		演習： △	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○	○				IT業界の職種について説明ができる。		
	○	○				就職採用試験に提出する履歴書の作成ができる。		
	○	○	○	○		面接試験を受ける準備ができる。		
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック(麻生塾)							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	就職活動の流れ、就職活動のルールを知る						
	2	業界研究① IT業界の基礎				IT業界について調査する		
	3	業界研究② 様々な業種に絡むIT業界				IT分野の業種について調査する		
	4	業界研究③ IT業界で活躍する人材とは				社会人基礎力について調査する		
	5	自己分析① 過去の自分と向き合う				就職活動ガイドブックの自己分析シートを記入する		
	6	自己分析② 今の自分と向き合う						
	7	自己分析③ 未来の自分と向き合う				5年後、10年後の自分の姿を予想する		
	8	履歴書作成① 自己PR				自己PRを完成させる		
	9	履歴書作成② 業界志望理由				業界志望理由を完成させる		
	10	履歴書作成③ 趣味・特技・特記事項				履歴書を完成させる		
	11	面接練習① 入退室の所作						
	12	面接練習② 自己PR・志望理由の受け答え						
	13	面接練習③ 自己PR・志望理由の掘り下げ						
	14	面接練習④ 学生時代に力を入れたこと						
	15	企業説明会・入社試験時のマナー						
評価方法	(1)履歴書を作成する。(2)面接状況(動作、受け答え)を評価する。 (3)業界セミナー、就活セミナーのレポートを提出する。(4)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	履歴書提出	○	◎				30%	
	面接状況	○	◎	◎	◎		30%	
	レポート提出		○		◎		20%	
	受講状況				◎		20%	
履修上の注意	再試験は実施しない。							

科目名	一般教養ⅢB						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	木村 浩昌	
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験		
対象学科・学年	情報工学科 3年・情報システム専攻科 3年 情報システム科アドバンスコース2年、情報システム専攻科アドバンスコース2年						
授業概要	就職筆記試験に関して以下の対策を行う。 ①「SPIテスト」 前期から継続し、数学分野(未実施分)を含め、解説&練習問題を行う ②「CAB・GABテスト」 テキストに沿って、解説&練習問題を行う ③ 漢字ミニテスト 麻生塾の「ミニテスト」を利用し、漢字の練習 ⇒ 確認テスト を行う						
	iCDタスクコード		該当なし				
授業形態	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				言語(数学)分野・非言語(国語)分野の問題に対して、解答を説明できること。	
テキスト・教材 参考図書	最新最強のSPIクリア問題集(成美堂出版) 最新最強のCAB・GAB超速解法(成美堂出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	CAB・GAB対策(その1)					
	2	CAB・GAB対策(その2) 、漢字対策(その1)					
	3	CAB・GAB対策(その3) 、漢字対策(その2)					
	4	CAB・GAB対策(その4) 、漢字対策(その3)					
	5	中間テスト(CAB・GAB一連テスト)、漢字対策(その4)				中間テストの範囲を復習しておくこと	
	6	CAB・GAB対策(その5) 、漢字対策(その5)					
	7	SPI数学分野の対策(その1)、漢字対策(その6)					
	8	SPI数学分野の対策(その2)、漢字対策(その7)					
	9	SPI数学分野の対策(その3)、漢字対策(その8)					
	10	SPI数学分野の対策(その4)、漢字対策(その9)					
	11	SPI数学分野の対策(その5)、漢字対策(その10)					
	12	SPI数学分野の対策(その6)、漢字対策(その11)					
	13	SPI数学分野の対策(その7) 及び SPI数学分野の小テスト				小テストの範囲を復習しておくこと	
	14	SPI性格検査、CAB・GAB性格検査OPQ SPI数学分野の小テスト				小テストの範囲を復習しておくこと	
	15	SPI数学分野の小テスト 及び SPI国語分野の復習、定期試験対策					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で小テストを実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				55%
	小テスト	◎	◎				25%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							

科目名	技術英語／技術文書						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数		30時間	担当者	北島 仁宇
実施年度	2023年度		実施時期		後期	担当者実務経験	
対象学科・学年	情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻3年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻3年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース2年						
授業概要	・ITエンジニア向けの英語ドキュメントを読む際に必要な、基礎的なリーディングの知識とテクニックを習得する。 ・IT技術者が、顧客の要望や課題を把握し、技術的に裏打ちされた最適な提案ができるようになる ・クライアントに伝わる文章表現力を磨くことができる						
	iCDタスクコード		該当なし				
授業形態	講義：○		演習：△		実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				ITエンジニア向け英語ドキュメントの特徴をつかんで、内容を説明することができる。	
	○					ITエンジニア向け英単語の意味を理解し、使用することができる	
	○					自分のライティングスキルをチェックし、ビジネスに通用する文書を書けるようになる	
		○				伝わる作業手順書、障害報告書、社外メールを書くことができる	
テキスト・教材 参考図書	TOEICテスト書きこみノート 文法編(学研教育出版) 技術者のためのテクニカルライティング入門講座(翔泳社)						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	英語：英語の基本になるパーツ―品詞(名詞；代名詞 ほか)					確認テストの準備をしておくこと
	2	英語：英語の基本になるパーツ―品詞(名詞；代名詞 ほか)					確認テストの準備をしておくこと
	3	英語：パーツの並べ方―文(単語の役割と文；文の種類 ほか)					確認テストの準備をしておくこと
	4	英語：パーツの並べ方―文(単語の役割と文；文の種類 ほか)					中間テストの準備をしておくこと
	5	中間テスト/英語：時間を表すルール―時制(現在形と現在進行形；過去形と現在完了形 ほか)					確認テストの準備をしておくこと
	6	英語：時間を表すルール―時制(現在形と現在進行形；過去形と現在完了形 ほか)					確認テストの準備をしておくこと
	7	英語：時間を表すルール―時制(現在形と現在進行形；過去形と現在完了形 ほか)					定期試験の準備をしておくこと
	8	文書：第1章 ロジカルライティング×テクニカルライティング活用の基礎知識					
	9	文書：第2章 わかりやすく、簡潔な文章を書くテクニック					授業内容に係るレポート作成および提出
	10	文書：第3章 読み手に伝わる文章を書くテクニック					
	11	文書：第4章 読みやすさを高める文章フォーマット～文章、表記のルール～					授業内容に係るレポート作成および提出
	12	文書：第5章 実践編 ユーザーマニュアル・取扱説明書(作業手順書)					
	13	文書：第6章 実践編 提案書					授業内容に係るレポート作成および提出
	14	文書：第7章 実践編 障害報告書					
	15	文書：第8章 実践編 社外メール文					授業内容に係るレポート作成および提出
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)単元毎に課題・レポートを実施する。 (3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				50%
	課題・レポート	○	○				40%
	受講状況				○		10%
履修上の注意							

科目名	Webアプリケーション演習B											
科目名(英)												
単位数	4単位		時間数		60時間		担当者		北島 仁宇			
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻3年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻3年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース2年											
授業概要	PHP言語を活用したWebアプリケーション開発の基礎の修得を目指す。演習を通じて動作確認しながらWebアプリケーションの仕組みを理解する。また、適宜追加の演習問題を実施して、知識の定着を図る。											
	iCDタスクコード		DV08.5.3									
授業形態	講義：△		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○	○				PHPの基本的な知識(基本構文、制御構文等)を利用したプログラムを作成できる						
		○				PDOクラスを利用してデータベースを操作することができる						
		○				実用的なWebアプリケーションの開発ができるようになる						
テキスト・教材 参考図書	基礎からのPHP(ソフトバンク クリエイティブ(株))											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	CHAPTER11 phpMyAdminによるMySQL操作の基本										
	2	CHAPTER12 SQL文の基本					環境の構築を完了させること					
	3-4	CHAPTER13 PHPでMySQLを利用する										
	5-8	CHAPTER14 PHPのクラス					演習課題を終了させること					
	9-10	CHAPTER15 電子メールの送信					演習課題を終了させること					
	11-12	CHAPTER16 ファイルとディレクトリの操作										
	13-15	CHAPTER17 グラフィックの簡単な利用					演習課題を終了させること					
	16-18	CHAPTER18 Cookieを使おう					演習課題を終了させること					
	19-20	CHAPTER19 セッションって何？					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	21-22	CHAPTER20 Webアプリケーションに対する攻撃を知ろう					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	23-24	CHAPTER21 簡易画像掲示板を作ってみよう										
	25-27	CHAPTER22 画像掲示板を完成しよう					演習課題を終了させること					
	28-30	総合演習										
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)各内容での演習課題を実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験(筆記)	○		◎								50%
	課題演習	○		◎				○				40%
	受講状況							◎				10%
履修上の注意	・WEBアプリケーション演習Aを履修している、または同等の知識を有すること ・USBメモリを持参すること											

科目名	情報処理試験対策秋対策B											
科目名(英)												
単位数	1単位		時間数		20時間		担当者		川野 啓祐			
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	情報工学科3年・情報システム専攻科3年・ 情報システム科アドバンスコース2年・情報システム専攻科アドバンスコース2年											
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。											
	iCDタスクコード		該当なし									
授業形態	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。						
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。						
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1～5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。					分からなかった部分の復習をしておくこと。					
	6～10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。					分からなかった部分の復習をしておくこと。					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。 (2)課題・レポートを数回実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験(筆記)	○		◎								55%
	課題・レポート	○		◎								25%
	受講状況							◎				20%
履修上の注意	再試験は実施しない											

科目名	情報処理試験対策春対策B						
科目名(英)							
単位数	1単位		時間数	24時間	担当者	川野 啓祐	
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験		
対象学科・学年	情報システム専攻科3年・情報工学科3,4年 情報システム科アドバンスコース2年・情報システム専攻科アドバンスコース2,3年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
	iCDタスクコード		該当なし				
授業形態	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1～6	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				分からなかった部分の復習をしておくこと。	
	7～12	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				分からなかった部分の復習をしておくこと。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを数回実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				55%
	課題・レポート	○	◎				25%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							